

平成30年度 川崎市立日本民家園事業評価シート

■評価

つぎの3段階とする。

A:目標を充分達成し成果を上げている

B:目標を概ね達成している

C:目標を達成しておらず改善が必要である

■今年度の重点目標

- ・山下家耐震補強工事実施
- ・園路整備実施
- ・企画展2本開催
- ・第2期指定管理への円滑な移行

統計

項目	平成30年度結果	平成29年度実績	平成28年度実績	平成27年度実績
総入園者数		116,772人	116,053人	118,887人
有料入園者数(有料率)		52,122人(44.6%)	50,830人(43.8%)	56,422人(47.5%)
外国人入園者数		6,342人	5,918人	5,378人
総入園料収入		20,393,900円	19,890,660円	22,287,720円
歳出に占める歳入の割合		13.7% (50周年事業費を含めると 13.2%)	14.10%	15.90%
WEBサイトアクセス数 (英語版)		775,221件 (49,442件)	727,262件 51,586件	818,303件 45,991件
学校体験・見学校数		193校	196校	189校
炉端の会・民技会 会員数		炉端の会279人 民技会92人	炉端の会262人 民技会92人	炉端の会269人 民技会92人
伝統工芸館藍染体験参加者 数(伝統工芸館事業収入)		3,233人 (4,251,612円)	2,937人 4,142,372円	3,214人 4,603,338円

1. 民家野外博物館としての研究・展示・普及活動

(1) 文化財建造物・民具などの保存・整理・調査研究と補修の推進

現状：25件の文化財建造物を移築復原し、長期計画を立てて補修工事を実施している他、日常的な維持管理業務として燻煙と清掃を行っている。総合防災事業については、消火設備・防犯設備のリニューアルが完成し、耐震補強工事が進行中である。資料の整理・研究活動については、建築分野では大岡實博士文庫の目録や民家園叢書の刊行を進めている。民俗分野では移築民家ごとの資料目録(調査報告)の完成を受け、引き続き暮らしと家をテーマに調査を実施、報告書の刊行を進めている。

実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	平成30年度年度計画(目標水準)	平成30年度年度実績	今後の課題	評価
①文化財建造物維持管理の推進	三澤家・岩澤家・広瀬家屋根葺き替え(完成まで)。 新主任技術者への技術・知識等継承(完了まで)。 その他文化財建造物の適切な保存管理の推進(破損箇所随時)。	山下家屋根部分修理(初年度分)。 広瀬家屋根葺き替え修理(完成まで)。 屋根ほか小破修繕(破損箇所随時)。 園内文化財建造物の国重要文化財指定に向けた取組(文化庁への成果報告)			
②総合防災事業・耐震補強工事の推進	三澤家・山下家耐震補強工事(完成まで)。 太田家耐震補強設計(完了まで)。 菅原家耐震診断(完了まで)。	山下家耐震補強工事(初年度分)。 太田家耐震補強実施設計(完了まで)。 既存設備(防災・三澤免震)定期点検(各1回)。			
③[建築]収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表	大岡資料整理(調査ノート目録3刊行)。 民家園叢書継続刊行(鈴木家・三澤家耐震補強工事報告冊刊行)、および報道発表。	大岡資料整理(調査ノート目録3掲載予定資料の残り全て)。 民家園叢書鈴木家耐震補強工事報告(刊行まで)。			
④[民俗]収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表	耐震補強工事棟保管民具の仮収蔵場所への移動(完了まで)。 「暮らしと家」調査(報告書年1冊刊行)。 教育普及活動を含む学芸成果の外部への発信、報道発表(年2回)。	山下家移動民具のリスト化、仮収蔵場所へ移動(完了まで)。 「暮らしと家」調査実施(報告書刊行まで)。 ミュージアムエデュケーター連絡協議会にて学芸成果の報告(2回)。			
評定意見					

(2) 展示の充実

現状：25の文化財建造物を野外展示し、それを補うために本館に常設展示室と企画展示室を設置している。各古民家では地域の民具や年中行事の展示を行っている他、囲炉裏での火焚きや生活用具の製作風景、さらには屋根の葺替えなども展示の一環としてとらえ、作業風景を見せるための工夫をしている。常設展示室では、園全体の導入として日本の民家建築の基本を展示している。企画展示室では、民俗や建築をテーマに年2回企画展を開催し、合わせて関連事業を実施している。展示に際しては解説に英文を併記している他、スマートフォンを利用した4カ国語音声ガイド(日英中韓)を導入し、外国人向けのサービスにも力を入れている。

実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	平成30年度年度計画(目標水準)	平成30年度年度実績	今後の課題	評価
①常設展示(古民家内展示含む)及び関連事業の充実	<p>音声ガイドの利用拡充および保守(毎年保守委託)。 古民家内展示整備(解説パネル16カ所、敷地図25カ所設置、主要民具解説キャプション35点)。 石造物解説板整備(13カ所)。 スタンプラリーのリニューアル(ハウス・シート・スタンプ完成まで)。 建造物解説の充実(古民家めぐり年24回、大規模工事ごとに見学会開催・解説パネル設置)。 さわれる展示手法の取り入れ(床公開時に民具体験実施)。</p>	<p>音声ガイド保守、利用方法広報(ダウンロード数5000件)。 主要民具解説キャプション設置(35点)。 石造物解説板整備(13カ所)。 古民家めぐり実施(24回)。 工事見学会実施(1回)。 工事における建築解説パネル設置(屋根葺き替え、耐震補強工事実施時)。 収集民具を利用したさわれる展示の実施(試験実施)</p>			
②企画展示および関連事業の充実	<p>民家博物館として、特性を活かした話題性のある企画展示開催(年2本)。 さわれる展示手法の取り入れ(子供向け展示の場合に「触れるコーナー」設置)。 企画展中長期計画策定(計画書作成まで)。</p>	<p>企画展示「民家の暮らしと生きもの」、「郷土料理と食卓(飯)」開催(図録刊行まで)。 企画展示室内に「さわれるコーナー」設置(各企画展ごと)。 一般向け企画展示解説(10回)。 子供向け企画展示解説(4回)。</p>			
評定意見					

(3) 教育普及活動の充実

現状： 教育普及活動として学習講座・体験講座等を実施、特に子供や親子向けの行事、当日自由参加型の行事に力を入れている。また施設の特長を活かし、古民家の旧所在地と連携した事業にも力を入れ、各地の芸能公演や物産展などを行っている。この他、学校との連携を進め、小学生の体験学習や中学生の職業体験の受け入れを行っている。また、炉端の会・民具製作技術保存会は民家園の教育普及活動を支え、協力者会議を開催して事業運営の改善を進めている。指定管理者は伝統工芸館の充実を進めている他、さまざまな自主事業を行っている。

実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	平成30年度年度計画(目標水準)	平成30年度年度実績	今後の課題	評価
① 各種事業(講座・ワークショップ・催事)の充実	子供向けワークショップの充実(年平均6回)。 当日受付型・自由参加型事業の充実(年平均25回)。 生田緑地他館等との連携事業の充実(年平均2回)。	子供・親子向け行事・講座(6回) ミニワークショップ(6回) 当日参加型体験事業(20回実施) 科学館との連携行事(3回)。 他館周年事業に伴う行事協力打ち合わせ(各1回)			
② 旧所在地交流事業の充実	南砺市、甲州市、福島市との交流事業の充実(年平均各1回)。 旧所在地交流事業の拡充(九十九里町など)。	南砺市・甲州市・福島市との交流事業実施(計3回)。			
③ 学校との連携の充実	学校利用増加(年平均5校増)。 多摩区三大学(専修大・明治大・日本女子大)との連携推進(留学生モニター毎年3回実施)。 見学学校用教材増補(完了まで)。 インターナショナルスクール向け教材作成(完成まで)。	学校利用増(206校)。 夏休み行事案内発送(近隣4校)。 見学学校用教材増補(完成まで)。 幼稚園・保育園向け教材作成(着手)。			

④市民活動団体との連携の充実	<p>炉端の会、民技会との連携の強化および両者との協力者会議による運営改善(協力者会議年1回)。 昔話、お茶会等の団体との連携の充実(昔話30回、お茶会2回)。</p>	<p>民技会への活動支援(会計見直し)。 運営改善した上での協力者会議開催(2回)。 昔話(30回)。 お茶会(2回)。</p>			
⑤伝統工芸館・自主事業の充実	<p>本藍の継続的使用のため複数スタッフの技術向上(研修機会確保)。 自主事業の充実(年5回以上)。</p>	<p>本藍技術の研修受講(1回)。 大和藍による新商品開発(2点)。 ミニ展示開催(5回)。 絞り染め・型染め講座開催(5回)。 ワークショップ(2回以上)。</p>			
<p>評定意見</p>					

2. 民家野外博物館としての運営・管理活動

(1) 博物館経営(ミュージアム・マネージメント)の整備・充実

現状：平成25年度より指定管理者制度を導入し(5年毎に更新)、維持管理(文化財を除く)・広報業務を指定管理者が担っている。市の職員、指定管理者の職員、いずれも資質向上のため各種研修への参加を促している。また、来園者数・入園料収入向上を目標に、リピーター確保のための工夫を重ねている。危機管理については各種防災訓練を実施、危機管理マニュアルを随時更新している。

実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	平成30年度年度計画(目標水準)	平成30年度年度実績	今後の課題	評価
①運営体制・研修等の充実	運営の充実につながる次期指定管理の準備と円滑な移行(移行完了まで)。研修機会の継続確保(市職員年1回以上)。事業評価の実施と活用(毎年実施・公表)。市専門職員の確保(民俗1名)。	指定管理2期目への円滑な移行(移行完了まで)。庁内研修・外部の専門研修・勉強会への参加(市職員1回以上)。園内研修実施(職員の異動・採用・交代に伴い随時)。事業評価の実施と活用(30年度分実施、29年度分公表)。			
②入園者数・入園料収入等の確保	入園者数増(年間平均130,000人)。有料入園者増(年平均60,000人)。年間パスポートの増によるリピーターの拡大(年平均5,500人)。外国人入園者増(年平均6,500人)。	総入園者数増(123,000人)。有料入園者数増(55,000人)。年パス利用者数増(4,500人)。外国人入園者数増(6,100人)。			
③危機管理への構えと対応	危機管理マニュアルの継続的増補、職員への徹底(毎年項目見直し、読み合わせ)。来園者と文化財の安全確保、案内等質の高い警備の実施(マニュアル作成)。防災訓練の実施(毎年4回)。	警備員への研修(年1回)。防災訓練実施(年4回)。緑地全体での災害訓練実施(机上訓練まで)。園路外周の柵を耐久性ある材料へ見直し(材料選定まで)。			
評定意見					

(2) 魅力発信と広報の強化

現状: インターネットによる広報、地域団体・企業と連携した広報を展開している。また外国人誘致にも力を入れ、英語版のWEBサイトを設けている他、リーフレットは12カ国語(日・英・中繁・中簡・韓・仏・独・スペイン・ポルトガル・タガログ・タイ・ベトナム)に対応している。また、全ての案内板に英文を、一部の案内板は英語・中国語・韓国語を併記している。

実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	平成30年度年度計画(目標水準)	平成30年度年度実績	今後の課題	評価
①民家園・生田緑地の魅力発信	民家園・生田緑地の効果的情報発信。オリンピックパラリンピックに向けた広報の充実(広報の工夫・強化と入園者増)。生田緑地他施設・他局・観光協会・地元商店会・神奈川県等と連携した広報および連携先の開拓。優待サービスの効果的な広報と利用促進(利用者増)。来園者ニーズ把握方法の見直し(見直し案作成・実施)。	新指定管理者の関連企業のルートを使った広報の実施(東急沿線等)アンケートの有効サンプル数向上(アンケートキャンペーンの定期的実施、リピーターである年間パスポート利用者へのアンケート実施)			
②一般向け広報とサービスの充実	広報の充実(駅貼り・車内貼り・街路灯フラッグ実施)。WEBサイトの充実(アクセス数年平均830,000)。SNSを活用した広報(投稿月平均1回)。	SNSを活用した広報の実施(公式Twitter運用開始)。公式サイトをウェブアクセシビリティJIS X 8341-3:2016の適合レベルAAに準拠させたリニューアル(31年3月までに完了)。			
③外国人向け広報とサービスの充実	多言語音声ガイドの周知による魅力向上(ダウンロード数の国別集計実施)。音声ガイドの言語拡充(1カ国語)。英語版WEBサイトの充実(アクセス数年平均55,000)。	伝統工芸館における外国人対応の充実(リーフレット作成、外国人体験コースの設定)英語ウェブサイトのコンテンツ充実(PDFリーフレットの改訂、外国人学校に対する注意事項掲載)			
評定意見					

(3) 利用者の利便性・快適性・安全性の向上

現状： 来園者サービス施設として救護室や授乳スペース等を整備、ベンチやテーブル等のリニューアルも進めている。敷地内の環境は展示の一環として整備を進め、民家の旧所在地に合わせた植栽や、景観にふさわしい案内板の設置を行っている。また、バリアフリー化として古民家の敷居にスロープを用意、園路についても手すりの設置や一部土舗装化など対応を進めている。この他、来園者へのサービス向上のため、ショップの充実と窓口業務の改善に努めている。

実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	平成30年度年度計画(目標水準)	平成30年度年度実績	今後の課題	評価
①来園者サービス施設の充実、快適性の向上	<p>窓口・ショップの充実(繁忙期人員増)。新しい休憩施設等サービス向上に向けた取組の推進(実施に向けての設計等)。 山下家耐震工事中の飲食提供業務の確保(実施まで)。 船越の舞台客席改修(完成まで)。 休憩スペース改修(露天の全ベンチ改修)。 継続的な商品開発(毎年2点)。</p>	<p>炬端の会・民技会と連携した商品販売(30点)。 ベンチ改修(2カ所)。 本館外壁改修(設計まで)。</p>			
②環境整備による安全性・快適性の向上	<p>園路整備の効果的な推進(園路の全泥濘箇所)。 安全に配慮した危険箇所への対応(全急坂・階段への手すりの整備等)。</p>	<p>園路整備実施(緊急危険範囲)。 園路・排水整備(計画作成まで)。 危険箇所への対応(劣化箇所等随時)。 危険箇所確認の定期点検化(年1回)。</p>			
③博物館にふさわしい植栽の整備	<p>植栽管理の適切な実施(必要に応じ随時)。 危険木対策(発見次第随時)。 古民家の旧所在地に合わせた植栽整備(記念樹の植樹と育成)。</p>	<p>下草刈り実施(実施箇所決定)。 植栽整備計画策定(案作成まで)。 枝卸し・草刈・柵補修等実施(必要に応じ随時)。 民家園内の危険木管理(計画作成まで)。 緑地内の民家園関係箇所における危険木の長期的伐採計画作成(整備事務所と協議まで)。 花木植樹(5箇所)。</p>			
評定意見					